

第1学年*組		国語科学習指導案	
平成24年 *月*日(*) 第*校時 1年*組教室		指導者 渡辺 徳子	
育成する国語の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わうこと。 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 		
単元名	小説(一) 『羅生門』		
単元目標	<p>○文章中の表現を手掛かりに、人物の心情や情景を捉え、人物像について考えを深めようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み味わうことができる。 (読む能力①)</p> <p>○表現の特色に注意して読み、その効果を理解することができる。 (読む能力②)</p> <p>○常用漢字の読みに慣れ、語句の意味や用法等を理解し、語彙を豊かにできる。 (知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイ(イ))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	・作品を読んで、人物の心情や情景を捉え、人物について考えを深めようとしている。	①文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み味わっている。 ②表現の特色に注意して読み、その効果を理解している。	・常用漢字の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。
取り上げる言語活動	ワークシートを用いて各自読み取った下人の心情をまとめ、グループ内で意見を共有し多角的に下人という人物について考察し、発表する。		
題材(教材)	『羅生門』 芥川龍之介 (冊子プリント・ワークシート)		
単元(教材)について	<p>(1)教材観：近代小説の代表作である「羅生門」を読むことで、独特な表現を通して小説を読む面白さと奥深さを味わうことができる。また、下人の心理の動きを考えることで、表現に即して心情を読み取る力を養うことができる。</p> <p>(2)生徒観：前時までは、評論文等の読みを通して、文章の構成や表現の仕方を学び、書き手の意図を捉える力を付けてきた。本単元では、人物の心理を読み解くことで更に深く文章を味わう能力を身に付けさせたい。</p> <p>(3)指導観：ワークシート等を用いて、生徒自身が主体的に読むことができるようにし、グループ内で意見を共有し発表することで、様々な角度から人物の心理を読み味わうことができるようにする。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動	主な評価	
第1時	作者・作品・平安京について知る。 朗読CDを聴き、全文を通読し、初読の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みや作者・作品を理解している。(知識・理解) ・初読の感想を書き、理解した内容を確認しようとしている。(関心・意欲・態度) 	
第2時	辞書を用いて語句調べを行う。全文を段落に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味を理解している。(知識・理解) 	
第3時	第一段落を読み、場面を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・独特な表現に注意し、場面設定や京・羅生門の様子について理解している。(読む能力) 	
第4時	第一段落での下人の心情を考え、グループ内で意見を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下人の心情を表現に即して読みとっている。(読む能力) 	
第5・6時	第二段落を読み、場面を捉える。 第二段落での下人の心情を場面ごとに考え、グループ内で意見を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・独特な表現に注意し、場面設定や情景を理解している。(読む能力) ・下人の心情を表現に即して読み取っている。(読む能力) 	
第7・8時	第三段落を読み、下人の心情を場面ごとに考え、グループ内で意見を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下人の心情を表現に即して読み取っている。(読む能力) ・個人で読み取って下人の心情をグループ内で共有しようとしている。(関心・意欲・態度) 	
第9時	老婆の言い分と下人の「ある勇氣」について理解する。 第四段落を読み、場面を捉え、下人の心情を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・老婆の考えとそれに伴う下人の心情の変化について読み取っている。(読む能力) 	
第10時	グループで下人の心情に沿って下人の性格をまとめる。 「下人のその後」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、本文の表現に即した下人像を読み取ったことを、まとめている。(読む能力) ・読み取った下人像を基に、その後について考えたり自分に置き換えて考えたりしようとしている。(関心・意欲・態度) 	

本 時 案 (第4時)

本時の目標	○本文の表現を手掛かりに、下人の置かれている状況や心情について読み取り、グループ内で共有しようとする。 (関心・意欲・態度) ○下人の心情を表現に即して読み取ることができる。 (読む能力) (C「読むこと」の(1)のウ) ○語句の意味や用法等を理解できる。 (知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイ(イ))
-------	---

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時の復習をし、本時の学習活動について知る。	○冊子プリントで第一段落の場面設定や羅生門の状況、下人の容姿などを確認させる。 ○下人の心情を読みとることを意識させる。	

本文の表現に即して、下人の立場や心情について読みとろう。

2 下人の置かれている状況を読み取る。	○第一段落の中から、下人の置かれている状況が書かれている箇所を探し、冊子プリントの空欄を埋めるよう指示する。 ○「途方に暮れる」や「暇を出す」の語句の意味を確認させる。	○語句の意味や用法等を理解している。 (知識・理解) 〈行動の確認〉
3 本文に即して下人の心情を読み取る。 (1) 根拠となる表現(羅生門の下にいる下人の心情が分かる部分)を本文中から抜き出す。	○第一段落の中から、下人の心情が表現されている箇所を探させ、抜き出し、冊子プリントの「根拠となる表現」の欄に記入させる。 ○長い文章の場合は省略しても構わないが、該当箇所が分かるようにページや行数を記入するように指示する。	○下人の心情を表現に即して読み取っている。 (読む能力) 〈記述の点検〉
(2) 根拠となる表現から、下人の「心の声」を想像して書く。	○「心の声」は実際に話しているように書くことを指示する。 ○考えつく限り何個でも書くよう促す。	
4 読みとった下人の心情をグループ内で共有し、ワークシートにまとめる。	○事前に3人組に分けておく。 ○グループに1枚ずつワークシートを配布する。1名書記を決める。 ○各自自分の記入した内容を発表させる。 ○書記は全員分の意見をまとめて記入するように指示する。なお、同じ意見はまとめてもよいものとする。 ○ワークシートを提出させる。	○読み取った下人の心情をグループ内で共有しようとする。 (関心・意欲・態度) 〈行動の観察/ワークシートの確認〉

ー努力を要する生徒への手立てー
 ・下人の心情をなかなか抜き出すことができない生徒には、下人の言動に着目するよう助言する。

ー努力を要する生徒への手立てー
 ・発言することが苦手な生徒には、自分の冊子プリントを提示して伝えてもよいこととする。